

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 5 部門第 2 区分

【発行日】令和 4 年 7 月 29 日(2022.7.29)

【公開番号】特開 2021-42840(P2021-42840A)

【公開日】令和 3 年 3 月 18 日(2021.3.18)

【年通号数】公開・登録公報 2021-014

【出願番号】特願 2019-167273(P2019-167273)

【国際特許分類】

F 1 6 F 15/14(2006.01)

10

F 1 6 H 45/02(2006.01)

【F I】

F 1 6 F 15/14 B

F 1 6 H 45/02 Y

【手続補正書】

【提出日】令和 4 年 7 月 21 日(2022.7.21)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

20

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

収容部を有し、回転可能に配置される第 1 回転体と、
前記第 1 回転体とともに回転可能であり、且つ前記第 1 回転体と相対回転可能に配置される第 2 回転体と、
前記収容部内に径方向移動可能に配置され、前記第 1 回転体又は前記第 2 回転体の回転による遠心力を受ける遠心子と、
前記遠心子に作用する遠心力を受けて、前記遠心力を前記第 1 回転体と前記第 2 回転体との回転位相差が小さくなる方向の円周方向力に変換するカム機構と、
を備え、
前記カム機構は、
前記遠心子に形成されるカム面と、
前記カム面と当接し、前記遠心子と前記第 2 回転体との間で力を伝達するカムフォロアと、
を有し、
前記遠心子は、前記収容部の内壁面上を転動することによって径方向に移動するように構成される、
トルク変動抑制装置。

40

【請求項 2】

前記カムフォロアは、前記カム面上を転動する、
請求項 1 に記載のトルク変動抑制装置。

【請求項 3】

前記遠心子は、軸方向に貫通する第 1 貫通孔を有し、
前記カム面は、前記第 1 貫通孔の内壁面によって構成される、
請求項 1 又は 2 に記載のトルク変動抑制装置。

【請求項 4】

前記カムフォロアは、前記第 2 回転体に自転可能に取り付けられる、
請求項 1 から 3 のいずれかに記載のトルク変動抑制装置。

50

【請求項 5】

前記第 2 回転体は、第 2 貫通孔を有し、
前記カムフォロアは、前記第 2 貫通孔の内壁面上を転動する、
請求項 1 から 4 のいずれかに記載のトルク変動抑制装置。

【請求項 6】

前記カムフォロアは、円柱状又は円筒状のコロである、
請求項 1 から 5 のいずれかに記載のトルク変動抑制装置。

【請求項 7】

入力部材と、
前記入力部材からトルクが伝達される出力部材と、
請求項 1 から 6 のいずれかに記載のトルク変動抑制装置と、
を備える、動力伝達装置。

10

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0010】

好ましくは、第 2 回転体は、第 2 貫通孔を有する。カムフォロアは、第 2 貫通孔の内壁面上を転動する。

20

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0026

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0026】

第 1 及び第 2 ガイド面 221a、221b は、円周方向（図 5 の左右方向）を向いている。
第 1 及び第 2 ガイド面 221a、221b は、遠心子 4 を向いている。遠心子 4 がいない場合、第 1 及び第 2 ガイド面 221a、221b は、対向している。第 1 ガイド面 221a と第 2 ガイド面 221b とは、互いに略平行に延びている。第 1 及び第 2 ガイド面 221a、221b は、平面である。

30

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0055

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0055】

そして、遠心子 4 に形成されたカム面 51 がカムフォロア 52 を介して、イナーシャリング 3 を図 7 の右側に押圧し、イナーシャリング 3 を図 7 の右側に移動させる。このとき、カムフォロア 52 の大径部 521 はカム面 51 上を転動し、カムフォロア 52 の小径部 522 は第 2 貫通孔 31 の内壁面上を転動する。なお、カムフォロア 52 は、時計回りに自転している。この結果、図 6 の状態に戻る。

40